

## 今年度の活動

2022 年度（2022 年 4～12 月）の個人研究の活動を以下に報告する。日常的な研究活動としては、2021 年度に実施した「メディア技術の諸相を主題にしたテレビ・ドラマの自己省察的表現の研究」（放送文化基金）と、「パレオ TV と建築——メディア・イベントの設計者としての磯崎新」（窓研究所）からの展開を意図して研究の整理をすすめた。

特に後者に関連し、テヘラン大学（イラン）での国際シンポジウム《Art and the Space In-Between: International Symposium on Space,

Liminality and Latent Dimensions in Art and Architecture》に参加。

「The Virtual and the Real - Direction of Arata Isozaki」と題した口頭発表を実施した。また 2023 年 4 月に、窓研究所での口頭発表の予定があり、磯崎新の思想性を、ポスト・メディア論から再構築することを意図し、準備をすすめている。

国立新美術館と兵庫県立美術館で開催された「李禹煥」展に際して、『虚像培養芸術論』（フィルムアート社、2021 年）で展開した議論をもとにした対談に参加し、21 世紀から相対化した虚像概念について対話、解説を行った。

『PFF スペシャル映画講座』で開催された「青山真治の音響、そして音楽」では、音楽家の長瀧寛幸（東京藝術大学）と、2013 年から継続している研究の一環で、菊池信之（録音技師）へのインタビューを公開で実施した。詩人として、日々「純粹詩」の「量子詩」の制作を継続した。YVON LAMBERT（出版社）の依頼で、「LOCUS SOLUS」に参加し、2006 年から継続するサーチエンジンと自動翻訳を利用したシリーズの新作を発表した。IAMAS 内で、赤松正行を中心に WEB 上で展開されている「Critical Cycling」の枠内で、広い意味で、自転車を主題とする詩を連載した（2022 年 4 月～2023 年 3 月予定）。

学内では、担当 PJ、授業の研究教育活動、担当学生の指導の他、研究委員会（委員長）等を務めた。



## 作品

- ・《 [Hommage à R. S.](#) 》 LOCUS SOLUS XVIII, YVON LAMBERT, June, 2022
- ・「[Cycle 自転車をめぐる散文詩の試み](#)」(Critical Cycling のweb で連載  
2022年4月～)

## 寄稿

- ・「始まりの現象 「唯ブツ論<sup>々</sup>もの語り」の世界」『美術手帖』2023年1月号  
(12月刊)。
- ・「作者の消去 「BYT」という自己変容トレーニング」(「[光の布置—前田真二郎レトロスペクティブ—](#)」第23回中之島映像劇場) 国立国際美術館、2022年11月12、13日、13-18頁。

## 発表

- ・「[青山真治の音響、そして音楽](#)」(「PFF スペシャル映画講座」) 国立映画アーカイブ、2022年9月23日
- ・The Virtual and the Real - Direction of Arata Isozaki, 《 [Art and the Space In-Between: International Symposium on Space, Liminality and Latent Dimensions in Art and Architecture](#) 》 University of Tehran, September 10 and 11, 2022
- ・「[李禹煥 対話より—1968から明日まで 李禹煥 × 松井茂](#)」国立新美術館、兵庫県立美術館、2022年7月(オンライン)

## 展示

[「My First Digital Data はじめてのデジタル」展](#) (3331 Arts Chiyoda 1F 3331 Gallery)

## 学内の活動

- [PJ] Maintenance poiesis、タイムベースドメディア・プロジェクト
- [授業] 総合学A、総合学C、メディア表現特論A、メディア表現基礎2